

# 石井 鈴

儂さゆえの強さ。命のカタチを描くために…



《訪れ》 30S 日本画 2016年

石井鈴は、京都造形芸術大学で千住博氏に師事。関西を拠点に、無所属で活動を続ける女性日本画家。エキゾチックな動植物画を描き続け、着実にキャリアを重ねてきた。

「子どもの頃から口でうまく表現できない分、ずっと絵を描いてきました。絵は私にとって自分以外と交信するための手段。理解を求めるのではなく、何かが感じられる作品を描いて、芸術に関係のない人や自分と共通点のない多くの人の足を止めたいと思っています」

「画像では決して作りえない、「物」として価値ある完成度の高い絵を描きたい」と石井は言う。そして、誰もがSNSの画像で作品発表が可能な今だからこそ、岩石をくいだいた絵具の発色や絵肌を直に手にして見てほしい、とも…。

「日本画の魅力は、極彩色から暗色までのさまざまな色彩を自分で調整できること。制限された中で濁りの無い発色を目指しながら、必死に生きる動植物を通じて、命の儂いゆえの強さ、そのカタチを描いてゆきたいと思っています」